

2022年度入試展望

2022年度入試の受験環境

18歳人口は2022年度以降も減少し大学志願者数も減少が見込まれます。一方、大学入学定員は新設の大学・学部・学科や私大の入学定員増により**大学全体の入学定員は増加**が続いています。いずれ大学志願者数が大学入学定員を下回ることであり、選ばなければ全員がどこかの大学に入れる「**大学全入時代**」の到来が現実味を帯びてきています。こういう時代だからこそ本当に入りたい大学選びを実践してほしいと切に願います。

国公立大の主なポイント

①**総合型・学校推薦型選抜の拡大**が続いています。2022年度入試では合わせて500人ほど増加。また**共通テストを課す**大学も増加。入試の形式を問わず**共通テストの重要度**が増しています。一方、一般選抜の後期日程は廃止・縮小が続いています。

しかし総合型・学校推薦型が増えているとはいえ、一般選抜の募集の**約8割は前期日程**であり、**入試の中心は一般選抜**であることには依然変わりません。

②**主体性評価、思考力・表現力を重視**する動きが広がっています。主体性評価では**面接**を実施する大学が増加。主に教員養成系・医療系の学部で導入が進んでおり、**志望理由書**など志願者本人が記載する資料を重視しています。

思考力・表現力評価を重視する動きでは、新たに**小論文・総合問題**を課す大学に加え、個別試験で課す**科目を増やす**大学も出てきています。

私立大学の主なポイント

①いくつかの大学で**学部の新設・改組**が行われます。関東圏では、青山学院大が法学部にヒューマンライツ学部、武蔵大が国際教養学部、國学院大が観光まちづくり学部を新設。

また私立大では前述の通り**入学定員増の動き**が続きます。32大学1940名の増員に加え、3大学の**新設**

を加えると約3000人の増加となる模様です。

②**英語資格検定試験**の活用する大学数はさほど変わらないものの、**活用の幅を広げる動き**が活発です。中央大(理工)、法政大(社会・国際文化)などが英語資格検定を活用した方式を新たに実施。法政大は一部の学部の方式で大学独自の英語試験を廃止し、英語資格検定試験を利用するとしています。英語資格検定試験の重要度が年々増していると言えます。

③私立大の中では郊外から**都心部へキャンパス移転**させる動きが見られます。中央大(法学部)は、2023年度に文京区の茗荷谷へ移転することになっており、来春入学生も2年次以降、茗荷谷に通学することになり、人気が集まっている模様で2022入試でも要注意。

④私立の一般選抜でも**科目負担を増やす動き**が見られます。**共通テストの教科・科目数が多い方式**を追加するケースが目立ちます。国公立大と併願する受験生をターゲットにし、受験層を広げるのが狙いと考えられます。関東圏では工学院大、専修大、成蹊大などが該当します。早いうちから**科目を絞らずに複数科目に対応できるように**することが受験の幅・チャンスを広げることになります。一般選抜受験生の健闘を祈ります。



初級レベル 包括(ほうかつ)

→ 一つにまとめること

= inclusion

例) 問題点を**包括**して対策を練る。

標準レベル 御用達(ごようたし)

→ 皇居などに商品を収めること

= purveyance

例) 宮内庁**御用達**の品物

発展レベル 相伴(しょうばん)

→ 連れだっていくこと

= accompaniment

例) ご**相伴**にあずかります。